

令和5年度 町内会DX推進実証事業 実施報告書

1 目的

総務省が令和4年4月に公表した「地域コミュニティに関する報告書」では、地域コミュニティの基盤となる町内会において、役員の担い手不足や高齢化等の解消を課題としている。持続可能な町内会活動を見据え、デジタル技術の活用により、効率化及び活性化を図るため、スマートフォンで使用できる連絡ツールアプリケーション「結ネット」を試行的に導入し、その効果や課題を検証する。

令和5年度は次の項目について検証を行う。

- ・「電子回覧板機能」や「電子表決機能」の効果・課題
- ・目標設定やフォローアップ研修会による利用促進の効果・課題
- ・役員体制による影響

※実証事業は「結ネット」開発事業者である株式会社シーピーユーに委託。

2 実施内容

(1) 参加団体

モデル町内会（9町内会）、郡山市自治会連合会（役員23名）

- ・令和4年度モデル町内会のうち継続する5町内会
- ・令和5年2月に開催した説明会後に参加意向のあった4町内会

実証事業参加町内会及び各加入世帯数（R5.6.1現在）

No.	町内会名	地区	世帯数	開始年度
1	下亀田自治会	郡山中央	204世帯	令和4年度
2	バルミー郡山町内会	郡山中央	240世帯	
3	神明下町内会	安積	380世帯	
4	喜久田町第八区	喜久田	881世帯	
5	湖南町赤津区	湖南	151世帯	
6	上西田町内会	郡山中央	122世帯	令和5年度
7	中野第二町会	郡山中央	330世帯	
8	長久保町内会	安積	848世帯	
9	八山田一丁目町内会	富久山	36世帯	

(2) 取組み

スケジュールは3か月を1クールとし表1のとおり実施した。

表1 スケジュール

クール	月	内 容
第1クール	4月	① 第1クール目標設定（モデル町内会） ② アプリ操作研修会（新規モデル町内会）
	5月	
	6月	
第2クール	7月	① 第1クール目標達成度調査、第2クール目標設定（モデル町内会） ② アプリ操作研修会（連合会） ③ フォローアップ研修会（モデル町内会）
	8月	
	9月	
第3クール	10月	① 第2クール目標達成度調査、第3クール目標設定（モデル町内会） ④ ヒアリング調査（モデル町内会）
	11月	
	12月	
第4クール	1月	① 第3クール目標達成度調査（モデル町内会） ⑤ 利用者アンケート（モデル町内会） ⑥ 成果報告会（モデル町内会、連合会）
	2月	
	3月	

① 目標設定・達成度調査の実施

モデル町内会を対象に、機能活用や利用者拡大の目標を3か月ごとに設定し、達成度調査を実施した。（第1～第3クール）

② アプリ操作研修会の開催

（株）シーピーユーを講師として操作研修会を開催した。

○対象：令和5年度新規モデル町内会役員

・日 時：令和5年4月23日（日）

①10:30～12:00 ②13:30～15:00

・参加者：4町内会29名

・会 場：中央公民館 講義室



○対象：郡山市自治会連合会役員

・日 時：令和5年7月25日（火）14:00～15:10

・参加者：10名

・会 場：市役所 本庁舎 正庁

③ フォローアップ研修会の開催

モデル町内会を対象に、各町内会の活用状況や利用者拡大方法について情報共有・意見交換を実施した。

・日 時：令和5年8月31日（木）18:30～20:00

・参加者：7町内会12名

・会 場：総合福祉センター 研修室



④ ヒアリング調査の実施

実証事業の効果や課題を把握するため、モデル町内会役員にヒアリング調査を実施した。

- ・期 間：令和5年12月20日（水）～令和5年12月22日（金）
- ・対象者：9町内会の会長、役員

⑤ 利用者アンケートの実施

モデル町内会の利用者を対象にデジタルの利便性等の調査を実施した。

- ・期 間：令和6年1月12日（金）～令和6年2月2日（金）
- ・対象者：9町内会516名
- ・回答数：72名（回答率：14%）

⑥ 成果報告会の開催

モデル町内会、郡山市自治会連合会役員等を対象に成果報告会を開催した。

- ・日 時：令和6年2月13日（火）18:30～19:30
- ・参加者：34名
- ・会 場：総合福祉センター 集会室



(3) 利用世帯（ID数）

- ・事業開始した4月末で395世帯が導入、図1のとおり当初と比較すると121世帯31%増加した。（図1参照）
- ・利用者拡大は加入チラシの配布・回覧のみでは進まないため、個別にメリットを説明し利用促進を行った。
- ・8月から9月にかけてID数が50増加しているが、これは8月末に開催したフォローアップ研修会后、他の町内会の事例を参考に利用者拡大の取組みを実施したことにより増加した。

図1 「結ネット」登録ID数の推移

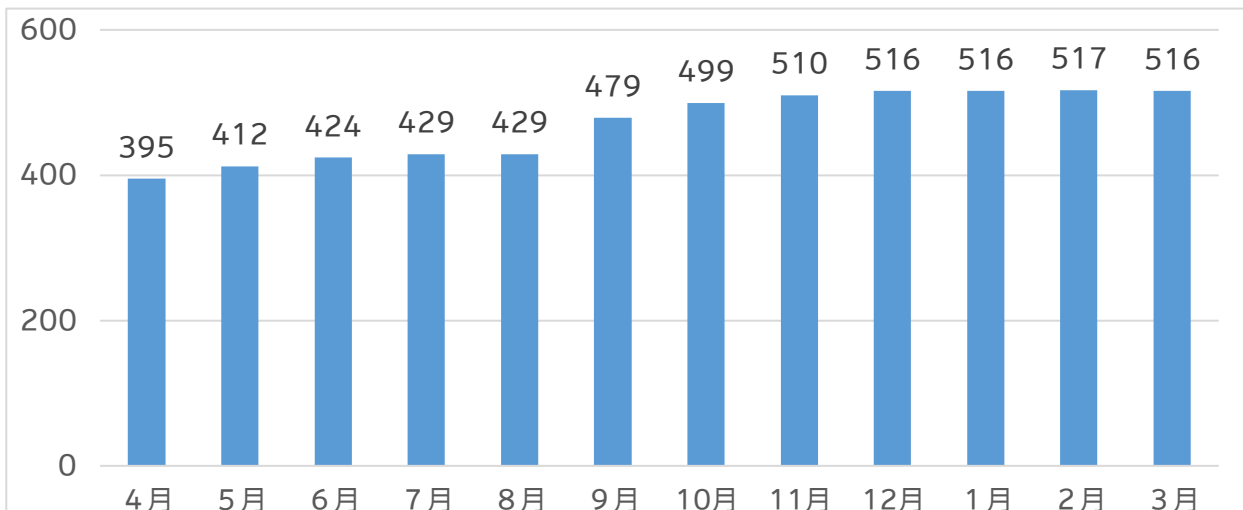


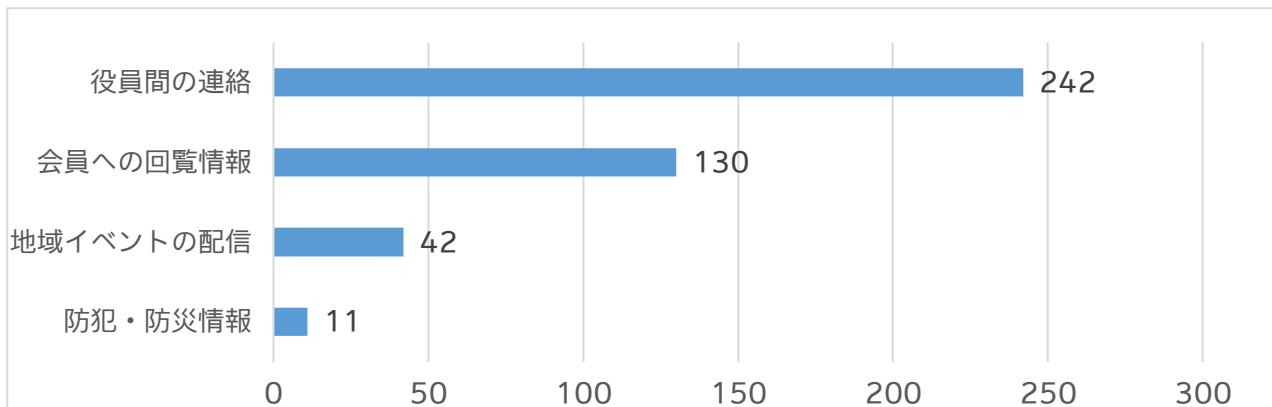
表2 モデル町内会別導入状況

No.	町内会名	世帯数	ID 発行数	導入率
1	下亀田自治会	204 世帯	70 ID	34%
2	バルミー郡山町内会	240 世帯	32 ID	13%
3	神明下町内会	380 世帯	18 ID	5%
4	喜久田町第八区	881 世帯	168 ID	19%
5	湖南町赤津区	151 世帯	33 ID	22%
6	上西田町内会	122 世帯	27 ID	22%
7	中野第二町会	330 世帯	90 ID	27%
8	長久保町内会	848 世帯	54 ID	6%
9	八山田一丁目町内会	36 世帯	25 ID	69%
合計・全体割合		3,192 世帯	517 ID	16%

(4) 配信内容

- ・配信記事内訳は、導入が役員や班長が中心となったこともあり「役員間の連絡」が最も多く、次いで「会員への回覧情報」となった。(図2参照)

図2 「結ネット」配信記事内訳（個別配信、テスト配信を除く、9モデル町内会）



3 検証結果

(1) 電子回覧板機能、電子表決機能

○ 電子回覧板機能

【効果】・瞬時にタイムリーな情報配信ができ、役員の時間や労力を省力化できた。

- ・会員自身の都合に合わせて記事を確認できた。
- ・過去の情報データが蓄積されるため、役員の引継ぎにも役立った。

【課題】・紙（アナログ）とデジタルとの二重対応が必要になり負担が増えた。

- ・紙とデジタルでは情報伝達にタイムラグが生じた。
- ・回覧板を渡す際の対面機会が減少し、住民同士の交流減少を懸念する声があった。

○ 電子表決機能

【効果】・役員などに手軽に意見聴取することができるようになり、簡易な協議事項であれば会議を省力化することができた。

・出欠回答などが容易に集約できるため、班長などの負担軽減ができた。

【課題】・紙（アナログ）とデジタルとの二重対応が必要であったり、未読・未回答者への確認や声掛けなどの負担があった。

(2) 目標設定やフォローアップ研修による活用促進

○ 目標設定

【効果】・目的や取組み内容が明確となり、役員間でのデジタル化の意識の共有ができた。

【課題】・デジタル化の取組みは町内会ごとに異なり、町内会の実情に合わせた目標設定が必要である。

・役員以外の会員の意識の共有は町内会により差があった。

○ フォローアップ研修会

【効果】・他の町内会の好事例を基に利用者拡大や記事配信を行う町内会があり、利用者 ID 数や記事配信数が増加した。

・町内会活動の中でデジタル化できるものを精査し、会議の省力化などに取組む町内会があった。

【課題】・活用促進は町内会の会員数、年齢構成、運営方法など多様であるため、他の町内会での事例がそのまま実践できるわけではない。

(3) 役員体制による影響

【効果】・記事配信などが活発な町内会では、デジタル活用の担当者を複数人置くことで、班長等の変更があっても継続して活用ができていた。

【課題】・役員体制の変更で、デジタル化の取組みを引継ぎしないと、従来のアナログによる活動に戻ってしまう町内会があった。

・記事配信などの負担が特定の人に集中してしまった。

4 今後の取組み

2年にわたる実証事業の結果を踏まえ、次のとおり町内会DX推進の取組みを行う。

① デジタル掲示板での情報配信

広報こおりやまや議会だよりなどの市刊行物情報を集約した市ウェブサイト「デジタル掲示板」の活用を広げ、必要な情報へのアクセス環境向上を図る。

② フォローアップ研修会の開催

モデル町内会などDXに取り組んでいる、これから始めたい町内会を対象に、事例発表・意見交換を行い、好事例の横展開を図ることでデジタルの輪を広げる。

③ デジタルデバインド解消への支援

デジタルデバインド解消のため、各公民館事業「スマートフォン教室」、健康長寿課「スマートシニア応援事業」などの活用を促進する。